

大学番号：128

[平成21年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

届出

東京成徳大学応用心理学部健康・スポーツ心理学科

## 【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 東京成徳学園  
平成24年5月1日現在

- (注) 1 「計画の区分」は届出時基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
届出時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、現在の名称を記載してください。  
例) 〇〇大学 △△学部  
(□□学部)  
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
例)  
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」  
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」  
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」  
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」  
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」  
※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。
- 3 大学番号の欄については、平成24年3月12日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 東京成徳学園

## (2) 大学名

東京成徳大学

## (3) 大学の位置

〒276-0013

千葉県八千代市保品字中台谷 2014番

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(キウチ ヒデトシ) 木内 秀俊 (平成17年9月)		
学長	(キウチ ヒデトシ) 木内 秀俊 (平成17年9月)		
学部長	(イチムラ ソウイチ) 市村 操一 (平成20年4月)	(カイホ ヒロユキ) 海保 博之 (平成21年4月)	届出時の研究科長の死去に伴い、市村操一が研究科長に就任。応用心理学部長には健康・スポーツ心理学科長 海保博之が就任(21)
学科長等	(カイホ ヒロユキ) 海保 博之 (平成21年4月)	(イチムラ ソウイチ) 市村 操一 (平成23年4月)	平成23年4月海保博之が大学副学長に就任(応用心理学部長兼務)のため、市村操一が学科長に就任(23)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成21年度に報告済の内容 → (21)

平成24年度に報告する内容 → (24)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。  
 ・ 様式は, 平成21年度開設の4年制の学科の場合(平成24年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
応用心理学部 健康・スポーツ心理学科  学士(健康・スポーツ心理学)	4年	50人	3年次 4人	208人	

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平均入学定員超過率	備考
	平成21年度		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	50 (-) [-]	人	50 (-) [-]	人	50 (4) [-]	人	50 (4) [-]	人	1.15倍	
志願者数	79 (-) [2]	- (-) [-]	82 (-) [1]	- (-) [-]	70 (1) [-]	- (-) [-]	105 (1) [-]	- (-) [-]		
受験者数	79 (-) [2]	- (-) [-]	82 (-) [1]	- (-) [-]	69 (1) [-]	- (-) [-]	102 (1) [-]	- (-) [-]		
合格者数	77 (-) [-]	- (-) [-]	76 (-) [1]	- (-) [-]	69 (1) [-]	- (-) [-]	69 (1) [-]	- (-) [-]		
B 入学者数	60 (-) [-]	- (-) [-]	62 (-) [1]	- (-) [-]	46 (-) [-]	- (-) [-]	63 (1) [-]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A	1.20		1.24		0.92		1.26			

- (注) ・ 数字は, 平成24年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( ) 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで**記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ - ] 60	[ - ] -	[ 1 ] 62	[ - ] -	[ - ] 46	[ - ] -	[ - ] 63	[ - ] -	
2年次	/		[ - ] 57	[ - ] -	[ 1 ] 60	[ - ] -	[ - ] 42	[ - ] -	平成22年度応用心理学部臨床心理学科へ転学科1名
3年次			/		/		[ - ] 55	[ - ] -	
4年次	/						/		/
計			[ - ] 60	[ 1 ] 119	[ 1 ] 161	[ 1 ] 215			

- (注) ・ 数字は、平成24年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成21年度 入学者	60 人	7 人	平成21年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1名), 除籍(1名), その他(応用心理学部臨床心理学科へ転学科)1名	11.7 %
			平成22年度	2 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1名), 除籍(1名)	
			平成23年度	2 人	0 人	就職(2名)	
			平成24年度	0 人	0 人	—	
平成22年度 入学者	62 人	6 人	平成22年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(1名), 他の教育機関への入学・転学(1名)	9.7 %
			平成23年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1名), 家庭の事情(1名), 学生個人の心身に関する事情(1名)	
			平成24年度	1 人	0 人	就職(1名)	
平成23年度 入学者	46 人	4 人	平成23年度	4 人	0 人	家庭の事情(3名), 就学意欲の低下(1名)	8.7 %
			平成24年度	0 人	0 人	—	
平成24年度 入学者	63 人	0 人	平成24年度	0 人	0 人	—	0.0 %
合 計	231 人	17 人					7.4 %

(注)・数字は, 平成24年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については, 該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも, その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については, 退学年度ごとに記入してください。また, 留学生数欄の人数については, 退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は, 【当該対象年度の入学者のうち, 平成24年度5月1日現在までに退学した学生数の合計】を, 【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際, 小数点以下第2位を四捨五入し, 小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は, 下の項目を参考に記入してください。その際, 「就学意欲の低下(○人)」というように, その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下   ・学力不足   ・他の教育機関への入学・転学   ・海外留学  
                  ・就職   ・学生個人の心身に関する事情   ・家庭の事情   ・除籍   ・その他

## 2 授業科目の概要

<応用心理学部 健康・スポーツ心理学科>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数					専任教員等の配置				備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通領域	キャリアデザイン	1-2-3-4前	2				2 1	1					クラス増加に伴う担当教員の追加(22)担当 出雲輝彦(教授) 共通領域部所属教員へ担当を変更。開講数は当初計画の2クラスとした。(23)担当 日山紀彦、長谷部孝司(兼任) <b>教員間の調整による担当教員変更(24)担当 神谷純子(専任)、加勇田修士(兼任)</b>	
	基礎演習	1-2-3-4前	2				1	1					教員間の調整による担当教員の変更(22)担当 木幡日出男(教授) 教員間の調整による担当教員の変更(23)担当 神谷純子(兼任)、大和田雄一(兼任) <b>入学者増に伴う開講数増(24)担当 西奈穂子(24)</b>	
	ディベート	1-2-3-4後	2					1					教員間の調整による担当教員の変更(22)担当 福山裕宣(兼任) 教員間の調整による担当教員の変更(23)担当 神谷純子(兼任)、西奈穂子(兼任) <b>入学者増に伴う開講数増(24)担当 大和田雄一(兼任)</b>	
	文章表現法	1-2-3-4前	2										履修上のバランスを図るため開講学期を変更(22) 当初計画どおり前期開講とした。(23) <b>入学者増に伴う開講数増(24)担当 奥山けい子(兼任)、山下琢巳(兼任)</b>	
	情報入門Ⅰ	1-2-3-4前	2											
	情報入門Ⅱ	1-2-3-4後	2											
	福祉心理学入門	1-2-3-4後	2				1							教員間の調整による担当教員の変更(22)担当 今中博章(兼任) 今中博章准教授の退職に伴う担当者の変更(23)担当 中山哲志(兼任) <b>入学者増に伴う開講数増(24)担当 コラス・テレマン(兼任)</b>
	英語会話	1-2-3-4通	2											
	総合英語	2-3-4通	2											
	フィットネス	1-2-3-4前	1				2	1						
	哲学A(人間と社会)	1-2-3-4前	2											
	哲学B(人間と自然)	1-2-3-4後	2											
	文学A(日本)	1-2-3-4前	2											
	文学B(世界)	1-2-3-4後	2											
	芸術学A(前近代)	1-2-3-4前	2											
	芸術学B(近現代)	1-2-3-4後	2											
	政治学A(政治の制度と思想)	1-2-3-4前	2											
	政治学B(現代日本の政治)	1-2-3-4後	2											
	法学A(法とは何か)	1-2-3-4前	2											
	法学B(法の体系)	1-2-3-4後	2											
	経済学A(基礎)	1-2-3-4前	2											
	経済学B(応用)	1-2-3-4後	2											
	社会学A(社会学の基礎理論)	1-2-3-4前	2											
社会学B(現代日本の社会)	1-2-3-4後	2												
人文地理A(日本)	1-2-3-4前	2												
人文地理B(世界)	1-2-3-4後	2												
心理学A(基礎心理)	1-2-3-4前	2					1 1						教員間の調整による担当教員の変更(21)担当 鎌田大輔(兼任) 21年度担当教員の退職に伴う担当教員の変更(22)担当 海保博之(教授) 教員間の調整による担当教員の変更(21)担当 鎌田大輔(兼任) 当初計画通り担当(22)	
心理学B(臨床心理)	1-2-3-4後	2					1 1							
環境科学	1-2-3-4前	2												
自然科学入門	1-2-3-4前	2												
情報演習A(情報発信)	1-2-3-4前・後	2												
健康科学	1-2-3-4前	2						1						
健康スポーツ	1-2-3-4後	1				2	1							
現代倫理学A(生命・生活)	1-2-3-4前	2												
現代倫理学B(環境・情報)	1-2-3-4後	2												
現代日本の歴史	1-2-3-4後	2												

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
共通 領域	現代 教養 科目	1-2-3-4前 未開講 1-2-3-4時		2								担当教員辞任のため(23) 通常開講(24) 担当教員の変更(24)担当 大井剛(兼担)
		1-2-3-4後		2								
		1-2-3-4前		2								
		1-2-3-4後		2								
		1-2-3-4前		2								
		1-2-3-4後		2								
		1-2-3-4前		2								
		1-2-3-4後		2								
		1-2-3-4前		2								
		1-2-3-4後		2								
		1-2-3-4前		2								
		1-2-3-4後		2								
		1-2-3-4前		2								
		1-2-3-4後		2								
		2-3-4前・後		2			1					
		2-3-4前・後		2								
		2-3-4前・後		2								
2-3-4後		1				1				教員間の調整による担当教員の変更 (23) 担当 神谷純子(兼担)		
3-4後		3				1						
	小計(56科目)	—	19	91	0	4 3 4	1	0	0	0		
専 門 領 域	心 理 学 基 礎	1-2-3-4通	4				1					
		3-4前		2				1				
		3-4後		2				1				
		3-4前		2								平成23年3月 国分康孝教授退職に伴う 担当の変更 担当 田村節子准教授 (23)
		3-4前		2								
		2-3-4前		2				1				
		2-3-4後		2				1				
		2-3-4後		2								
		3-4後		2								履修上のバランスを図るため開講時期を 変更(23) 当初計画通り後期開講とした(24) 平成23年度担当者の就任辞退に伴う担 当者の変更(24) 担当 今野裕之(兼任)
		3-4前		2								平成23年度担当者の就任辞退に伴う担 当者の変更(24) 担当 田中速教授(兼担)
		3-4前		2								
		2-3-4後		2				1				
		2-3-4前	2	2					1			
		2-3-4後		2						1		
		3-4前		2								平成23年度担当者の就任辞退に伴う担 当者の変更(24) 担当 羽鳥健司講師(兼任)
		3-4後		2							1	平成23年度担当者の就任辞退に伴う担 当者の変更(24) 担当 本多麻子助教(専任)
		3-4通		2				1				
3-4通		2					1					
3-4前		2							1	平成24年3月 羽鳥健司助教退職。兼任 講師として担当(24)		
3-4後		1							1	平成24年3月 羽鳥健司助教退職。兼任 講師として担当(24)		
3-4前		2							1	平成23年度担当者の就任辞退に伴う担 当者の変更(24) 担当 本多麻子助教(専任)		
3-4後		1							1	平成23年度担当者の就任辞退に伴う担 当者の変更(24) 担当 本多麻子助教(専任)		
2-3-4後	2	2					1					
3-4前		2					1					
3-4後		2							1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門領域	スポーツ心理学	スポーツ心理学演習1 (スポーツと心の健康)	3・4通	2			1					平成25年3月 市村操一教授退職に伴う担当者の変更。 担当 浦井孝雄講師(兼任) 浦井講師は平成25年4月より教授就任予定。
		スポーツ心理学演習2 (スポーツカウンセリング)	3・4通	2			1					
		スポーツ心理学演習3 (スポーツ活用)	3・4通	2			1					
		スポーツ医学	3・4前	2								
	ポジティブ心理学	ポジティブ心理学概論	2・3・4前	2						1		平成24年3月 羽鳥健司助教退職に伴う担当者の変更(24) 担当 本多麻子助教(専任)
		ポジティブ心理学特講	2・3・4後	2								
		レクリエーション理論	3・4前	2								
		ポジティブ心理学演習1 (ウェルビーイング)	3・4通	2			1					
		ポジティブ心理学演習2 (パフォーマンス)	3・4通	2						1		
	実習	健康・スポーツ心理学実習1 (ゴール型ボールゲーム)	1・2・3・4前	1			1					平成24年3月 羽鳥健司助教退職に伴う担当者の変更(24) 担当 本多麻子助教(専任)
		健康・スポーツ心理学実習2 (ニュースポーツ)	1・2・3・4後	1			1					
		健康・スポーツ心理学実習3 (ネット&バット型ボールゲーム)	2・3・4前	1				1				
		健康・スポーツ心理学実習4 (野外活動)	2・3・4集	1								
		健康・スポーツ心理学実習5 (自然体験)	1・2・3・4前	1			1					
		健康・スポーツ心理学実習6 (グループ活動)	1・2・3・4後	1			1					
		健康・スポーツ心理学実習7 (セラピー)	2・3・4後	1						1		
		健康・スポーツ心理学実習8 (ラケットスポーツ)	2・3・4後	1								
		健康・スポーツ心理学実習9 (コンディショニング)	3・4前	1								
		健康・スポーツ心理学実習10 (レクリエーション)	3・4後	1								
卒業研究	4通	6			5	1	0	1				
小計(46科目)		—	16	70	0	5	1	0	1	0		
合計(102科目)			35	161	0	5	1	0	1	0	学科総計114科目	

(応用心理学部健康・スポーツ心理学科 外国人留学生等特設科目履修者)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通領域	キャリアデザイン	1-2-3-4前	2			2	1					クラス増加に伴う担当教員の追加(22)担当 出雲輝彦(教授) 共通領域部所属教員へ担当を変更。開講数は当初計画の2クラスとした。(23)担当 日山紀彦、長谷部孝司(兼任) <b>教員間の調整による担当教員変更(24)担当 神谷純子(専任)、加勇田修士(兼任)</b>
	基礎演習	1-2-3-4前	2			1	1				教員間の調整による担当教員の変更(22)担当 木幡日出男(教授) 教員間の調整による担当教員の変更(23)担当 神谷純子(兼任)、大和田雄一(兼任) <b>入学者増に伴う開講数増(24)担当 西奈穂子(24)</b>	
	ディベート	1-2-3-4後	2				1				教員間の調整による担当教員の変更(22)担当 福山裕宣(兼任) 教員間の調整による担当教員の変更(23)担当 神谷純子(兼任)、西奈穂子(兼任) <b>入学者増に伴う開講数増(24)担当 大和田雄一(兼任)</b>	
	文章表現法	1-2-3-4前 1-2-3-4後 1-2-3-4前	2								履修上のバランスを図るため開講学期を変更(22) 当初計画どおり前期開講とした。(23) <b>入学者増に伴う開講数増(24)担当 奥山けい子(兼任)、山下琢巳(兼任)</b>	
	情報入門Ⅰ	1-2-3-4前	2									
	情報入門Ⅱ	1-2-3-4後	2									
	福祉心理学入門	1-2-3-4後	2				1				教員間の調整による担当教員の変更(22)担当 今中博章(兼任) 今中博章准教授の退職に伴う担当の変更(23)担当 中山哲志(兼任) <b>入学者増に伴う開講数増(24)担当 コラス・デレマン(兼任)</b>	
	英語会話	1-2-3-4通	2									
	総合英語	2-3-4通	2									
	フィットネス	1-2-3-4前	1			2	1					
	哲学A(人間と社会)	1-2-3-4前		2								
	哲学B(人間と自然)	1-2-3-4後		2								
	文学A(日本)	1-2-3-4前		2								
	文学B(世界)	1-2-3-4後		2								
	芸術学A(前近代)	1-2-3-4前		2								
	芸術学B(近現代)	1-2-3-4後		2								
	政治学A(政治の制度と思想)	1-2-3-4前		2								
	政治学B(現代日本の政治)	1-2-3-4後		2								
	法学A(法とは何か)	1-2-3-4前		2								
	法学B(法の体系)	1-2-3-4後		2								
	経済学A(基礎)	1-2-3-4前		2								
	経済学B(応用)	1-2-3-4後		2								
	社会学A(社会学の基礎理論)	1-2-3-4前		2								
	社会学B(現代日本の社会)	1-2-3-4後		2								
人文地理A(日本)	1-2-3-4前		2									
人文地理B(世界)	1-2-3-4後		2									
心理学A(基礎心理)	1-2-3-4前		2			1	1			教員間の調整による担当教員の変更(21)担当 鎌田大輔(兼任) 21年度担当教員の退職に伴う担当教員の変更(22)担当 海保博之(教授)		
心理学B(臨床心理)	1-2-3-4後		2			1	1			教員間の調整による担当教員の変更(21)担当 鎌田大輔(兼任) 当初計画通り担当(22)		
環境科学	1-2-3-4前		2									
自然科学入門	1-2-3-4前		2									
情報演習A(情報発信)	1-2-3-4前・後 1-2-3-4後		2							履修上のバランスを図るため前期開講を追加(23)		
健康科学	1-2-3-4前		2				1					
健康スポーツ	1-2-3-4後		1			2	1					
現代倫理学A(生命・生活)	1-2-3-4前		2									
現代倫理学B(環境・情報)	1-2-3-4後		2									
現代日本の歴史	1-2-3-4後		2									
現代世界の歴史A(アジア)	1-2-3-4前 未開講 1-2-3-4前		2							担当教員辞任のため(23) <b>通常開講(24)担当教員の変更(24)担当 大井剛(兼任)</b>		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通 領域	現代世界の歴史B (欧米)	1-2-3-4後		2								教員間の調整による担当教員の変更 (23) 担当 神谷純子(兼任)
	日本国憲法A	1-2-3-4前		2								
	日本国憲法B	1-2-3-4後		2								
	国際関係論A (政治)	1-2-3-4前		2								
	国際関係論B (経済)	1-2-3-4後		2								
	現代日本の経済	1-2-3-4前		2								
	福祉社会論	1-2-3-4後		2								
	現代教養科目											
	情報社会論A (技術)	1-2-3-4前		2								
	情報社会論B (生活)	1-2-3-4後		2								
	ジェンダー論A (歴史と現状)	1-2-3-4前		2								
	ジェンダー論B(男女平等社会)	1-2-3-4後		2								
	地球環境問題	1-2-3-4後		2								
	現代技術論	1-2-3-4後		2								
	スポーツ科学	1-2-3-4後		2		1						
	情報演習B (検定資格対策)	2-3-4前・後		2								
情報演習C (プログラミング)	2-3-4前・後		2									
情報演習D (画像処理)	2-3-4前・後		2									
キャリアデザイン実習I	2-3-4後		1		1							
キャリアデザイン実習II	3-4後		3		1							
小計 (56科目)		—	19	91	0	4	1	0	0	0		
特 設 科 目	日本語(現代文A)	1-2-3-4前	1	1							平成21年度入学者から、日本語運用能力により履修選択できるよう必修科目から選択科目へ変更した。(21)	
	日本語(現代文B)	1-2-3-4後	1	1								
	日本語(文法A)	1-2-3-4前	1	1								
	日本語(文法B)	1-2-3-4後	1	1								
	日本語(作文A)	1-2-3-4前	1	1								
	日本語(作文B)	1-2-3-4後	1	1								
	文章読解A	2-3-4前	2	2								
	文章読解B	2-3-4後	2	2								
	文章表現A	2-3-4前	2	2								
	文章表現B	2-3-4後	2	2								
	日本事情A(歴史・地理・時事)	1-2-3-4前	2	2								
日本事情B(政治・経済・文化)	2-3-4前	2	2									
小計 (12科目)		—	0	18	0	0	0	0	0	0		
専 門 領 域	心理学基礎	1-2-3-4通	4			1					履修上のバランスを図るため開講時期を変更(23) 当初計画通り後期開講とした(24) 平成23年度担当者の就任辞退に伴う担当者の変更(24) 担当 今野裕之(兼任)  平成23年度担当者の就任辞退に伴う担当者の変更(24) 担当 田中達教授(兼任)  平成23年度担当者の就任辞退に伴う担当者の変更(24) 担当 羽鳥健司講師(兼任)  平成23年度担当者の就任辞退に伴う担当者の変更(24) 担当 本多麻子助教(専任)	
	一般心理学	3-4前	2			1						
	認知心理学A	3-4後	2			1						
	認知心理学B	3-4前	2									
	カウンセリング心理学A	3-4前	2									
	人格心理学A	3-4前	2									
	生涯発達心理学A	2-3-4前	2			1						
	生涯発達心理学B	2-3-4後	2			1						
	社会心理学	2-3-4後	2									
	産業心理学	3-4後	2									
	産業心理学	3-4前	2									
	精神医学A	3-4前	2									
	心理情報処理法	2-3-4後	2			1						
	心理学実験実習	3-4通	2			1						
心理学基礎研究法	3-4後	2			1							
健康心理学概論	2-3-4前	2			1							
健康教育学	2-3-4後	2				1						
健康心理学												
健康心理学特講1 (ストレスマネジメント)	3-4前	2										
健康心理学特講2 (癒しの心理学)	3-4後	2										
健康心理学演習	3-4通	2			1			1				

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
専 門 領 域	健康教育学演習	3・4通		2			1					平成24年3月 羽鳥健司助教退職。兼任 講師として担当(24) 平成24年3月 羽鳥健司助教退職。兼任 講師として担当(24) 平成23年度担当者の就任辞退に伴う担 当者の変更(24) 担当 本多麻子助教(専任) 平成23年度担当者の就任辞退に伴う担 当者の変更(24) 担当 本多麻子助教(専任) 平成25年3月 市村操一教授退職に伴う 担当者の変更。 担当 浦井孝雄講師(兼任) 浦井講師は平成25年4月より教授就任 予定。 平成24年3月 羽鳥健司助教退職に伴 う担当者の変更(24) 担当 本多麻子助教(専任) 平成24年3月 羽鳥健司助教退職に伴 う担当者の変更(24) 担当 本多麻子助教(専任)	
	健康心理カウンセリング概論	3・4前		2					1				
	健康心理カウンセリング実習	3・4後		1						1			
	健康心理アセスメント概論	3・4前		2						1			
	健康心理アセスメント実習	3・4後		1						1			
	ス ポ ー ツ 心 理 学	スポーツ心理学概論	2・3・4後	2			1						
		スポーツ心理学特講1 (現代社会とスポーツ)	3・4前		2		1						
		スポーツ心理学特講2 (スポーツ指導論)	3・4後		2		1						
		スポーツ心理学演習1 (スポーツと心の健康)	3・4通		2		1						
		スポーツ心理学演習2 (スポーツカウンセリング)	3・4通		2		1						
		スポーツ心理学演習3 (スポーツ活用)	3・4通		2		1						
		スポーツ医学	3・4前		2								
	ポ ジ チ ブ 心 理 学	ポジティブ心理学概論	2・3・4前	2							1		
		ポジティブ心理学特講	2・3・4後		2								
		レクリエーション理論	3・4前		2								
		ポジティブ心理学演習1 (ウェルビーイング)	3・4通		2		1						
		ポジティブ心理学演習2 (パフォーマンス)	3・4通		2						1		
	実 習	健康・スポーツ心理学実習1 (ゴール型ボールゲーム)	1・2・3・4前		1		1						
		健康・スポーツ心理学実習2 (ニュースポーツ)	1・2・3・4後		1		1						
		健康・スポーツ心理学実習3 (ネット&バット型ボールゲーム)	2・3・4前		1			1					
		健康・スポーツ心理学実習4 (野外活動)	2・3・4集		1								
健康・スポーツ心理学実習5 (自然体験)		1・2・3・4前		1		1							
健康・スポーツ心理学実習6 (グループ活動)		1・2・3・4後		1		1							
健康・スポーツ心理学実習7 (セラピー)		2・3・4後		1						1			
健康・スポーツ心理学実習8 (ラケットスポーツ)		2・3・4後		1									
健康・スポーツ心理学実習9 (コンディショニング)		3・4前		1									
健康・スポーツ心理学実習10 (レクリエーション)		3・4後		1									
卒業研究	4通	6			5	1	0	1					
小計(46科目)	—	16	70	0	5	1	0	1	0				
合計(114科目)		35	179										
合計(110科目)		53	161	0	5	1	0	1	0	学科総計114科目(21)			

(注)・届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。

- 届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に届出された大学等は届出時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。  
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1)授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3)未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

## (2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 15	科目 87	科目 0	科目 102	科目 15 [ 0 ]	科目 87 [ 0 ]	科目 0 [ 0 ]	科目 102 [ 0 ]	
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	外国人留学生等特設科目履修者
科目 23	科目 87	科目 0	科目 110	科目 15 [ Δ8 ]	科目 99 [ +12 ]	科目 0 [ 0 ]	科目 114 [ +4 ]	

(注)・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[ ]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。  
(記入例:1科目減の場合:Δ1)

(注)・届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。

- 届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成23年度に届出された大学等は届出時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。  
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。  
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	・子ども学部、経営学部(東京都北区)は東京成徳短期大学と共用。 ・借地面積:7,386㎡(千葉県八千代市)〔貸与者〕 伊藤康雄4,081㎡ 伊藤博道3,305㎡ 借用期間:平成4年6月1日から20年		
	校舎敷地	79,282㎡(7,386㎡)	16,355㎡	0㎡	95,637㎡(7,386㎡)			
	運動場用地	47,056㎡(0㎡)	20,374㎡	0㎡	67,430㎡(0㎡)			
	小 計	126,338㎡(7,386㎡)	36,729㎡	0㎡	163,067㎡(7,386㎡)			
	そ の 他	0㎡(0㎡)	0㎡	0㎡	0㎡(0㎡)			
	合 計	126,338㎡(7,386㎡)	36,729㎡	0㎡	163,067㎡(7,386㎡)			
(2) 校 舎	専 用	22,189㎡	17,091㎡	937㎡	40,217㎡	図書館、体育館等を含む。・共用17,091㎡は、子ども学部、経営学部と東京成徳短期大学が共用。共用する他の学校等の専用は、東京成徳短期大学。		
		(22,189㎡)	(17,091㎡)	(937㎡)	(40,217㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	47室	38室	41室	7室 (補助職員 1人)	1室 (補助職員 0人)		
	演 習 室							
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	応用心理学部 健康・スポーツ 心理学科	3,926〔553〕	18〔8〕	0〔0〕	35	151	2	
	計	3,926〔553〕	18〔8〕	0〔0〕	35	151	2	
(6) 図 書 館	面 積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	389千円	450千円	図書購入費	471千円	1,580千円	
			450千円	450千円		500千円	1,400千円	1,400千円
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	1,260千円	948千円		
					1,300千円	1,000千円	1,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,345千円	1,025千円	1,025千円	1,025千円	— 千円	— 千円	
1,385千円		1,040千円	1,040千円	1,040千円	— 千円	— 千円		
	1,445千円	1,020千円	1,020千円	1,020千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		国庫補助金及び学園積立資金を充当する。						

- (注) ・ 届出時の計画を、届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成24年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(24)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	東京成徳大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人 3年次	人		倍			
人文学部								千葉県八千代市保品字中台谷2014番	・平成22年度より定員変更(60→40人、平成24年度より編入学定員4→1人) ・平成22年度より定員変更(専攻廃止により90→40人、平成24年度より編入学定員6→1人) ※平成22年度より国際言語文化学科の専攻廃止に伴う学生募集停止
日本伝統文化学科	4	40	1	185	学士(日本伝統文化)	0.73	平成13年度		
国際言語文化学科	4	40	1	121	学士(国際言語文化)	0.74	平成13年度		
英米言語文化専攻	4	—	—	—	学士(国際言語文化)	—	平成13年度		
アジア言語文化専攻	4	—	—	—	学士(国際言語文化)	—	平成13年度		
観光文化学科	4	70	3	213	学士(観光文化)	0.22	平成22年度		
応用心理学部									
福祉心理学科	4	50	5	206	学士(福祉心理学)	0.62	平成20年度		
臨床心理学科	4	70	5	286	学士(臨床心理学)	1.14	平成20年度		
子ども学部 子ども学科	4	90	10	380	学士(子ども学)	1.11	平成16年度		
経営学部 経営学科	4	100	10	420	学士(経営学)	0.88	平成21年度	※平成24年度より入学定員変更(100→140)	
大学の名称	東京成徳短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
言語文化コミュニケーション科	2	—	—	—	短期大学士(言語文化)	—	平成12年度	東京都北区十条台1丁目7番13号	※平成24年度より学生募集停止
幼児教育科	2	180	—	360	短期大学士(幼児教育)	1.06	昭和41年度		

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科(AC対象学部等を含む)について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成24年5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

## 6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (21年5月)	該当なし	該当なし	該当なし
設置計画履行状況 調 査 時 (22年5月)	<p>○ 応用心理学部福祉心理学科、人文学部日本伝統文化学科、国際言語文化学科、観光文化学科、東京成徳短期大学言語文化コミュニケーション科の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、今後の定員の在り方について検討すること。</p>	<p>○ 応用心理学部福祉心理学科は、①学科ホームページの充実：卒業生の進路状況・進路の紹介、学科の目標の明確化など、②オープンキャンパスにおける広報：カリキュラム編成の解説、取得可能資格の説明など、③高校訪問の充実等々の取り組みを行ったものの、入学者は定員に及ばなかった。</p> <p>○ 人文学部日本伝統文化学科は、平成20年度の大幅な定員割れの対策として、実体験重視の学科として広報を行うことに重点を置き、①従来の学外研修を体系的に練り直す、②夏期フィールドワークの導入、③プロジェクト活動の充実、④博学連携授業の推進、⑤伝統文化マスター制度の導入等の活動を行い、これらの活動を大学ホームページ、学科ブログ、報告書等の送付などにより募集につなげるべく活動を行った。</p> <p>また、22年度から入学定員を40名に変更し、これを機に、大学で学んだ伝統文化を社会に生かす、すなわち、就職への橋渡しおよび就職への学生のモチベーションを高めるために、カリキュラムを改変し、新たに文化マネジメント、出版およびメディア文化論等の科目を導入した。このことにより、就職につながらない文化系学科というイメージを打破したいと考えている。</p> <p>入学者は、21年度より若干増加したが、23年度は減少したため、さらなる対策が必要である。</p> <p>○ 人文学部国際言語文化学科は、平成22年度から専攻を廃止し、入学定員を40人に変更した。あわせて教育課程の変更もを行い、(1)英語集中学習プログラム、(2)補習授業(自由科目)の設定、(3)留学制度の充実、(4)国際文化系科目群の設定などを骨子とした改善を行なった。また、定員減に伴い、よりきめ細やかな指導を目指している。これまで入学した学生への指導も予定通り順調に履行している。その結果、昨年度の定員充足率は6割であったが、本年度は7割とやや増加したものの、定員には及ばなかった。</p>	<p>○ 今後は、①高校訪問の検討：在学生の高校訪問計画、②指定校の検討：福祉系高校の指定校について、③学会認定資格である福祉心理士の資格取得についての広報等々を計画している。</p> <p>○ 平成22年度から導入した文化マネジメント等の新カリキュラムは、今年度から順次開講される。これらの科目の教育により、学生が社会に出てその一員として社会を支えてゆく力を養うとともに、学生が卒業時に自信を持って社会に踏み出せるように支援をしてゆく。このことがまた、受験生に対する学科の信頼を得ることにつながると考える。</p> <p>従来の実体験重視の教育、少人数教育によるきめ細かな指導に加えて、新カリキュラムの教育等により就職を支援し、社会を支える人材を育てることを目指す学科の教育内容をしっかりと広報することにより、定員の充足を目指す。</p>

		<p>○人文学部観光文化学科は、平成23年度の入学者は21名で、定員70名を大きく下回った。平成22年度開設の準備段階からこのかた実施した幅広い広報活動にかかわらず、「観光文化」の学科コンセプトが十分に理解されなかったことなどに起因するものと思われる。</p> <p>○東京成徳短期大学言語文化コミュニケーション科については、社会情勢の変化を勘案し、平成24年度以降の学生募集を停止することが平成22年12月の学園理事会にて決定した。</p>	<p>○平成24年度の学生募集において、多様な需要にこたえる人材養成をめざす学科コンセプトと、それぞれの進路に対応したカリキュラム構成などについて、高校生・高校教員の理解を得るべく、教員との交流・高校生フォトコンテスト・インターネット情報発信などの方法により、定員充足に努める。</p> <p>○該当なし</p>
<p>設置計画履行状況 調査時 (23年5月)</p>	<p>○応用心理学部福祉心理学科、人文学部日本伝統文化学科、国際言語文化学科、観光文化学科、東京成徳短期大学言語文化コミュニケーション科の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>○応用心理学部福祉心理学科は、①学科ホームページ等の充実:学科の目標である社会福祉士、精神保健福祉士、教職等の養成並びに卒業生の進路状況の明確化を行った。②オープンキャンパスにおける広報:模擬授業を多く実施し、体験学習、演習、実習などを重視したカリキュラム編成の解説、取得可能資格の説明などを行った。③高校訪問・指定校の検討の取り組みを行った。以上の内容ことを実行してきたが、入学者は定員に及ばなかった。</p> <p>○人文学部日本伝統文化学科は、平成22年度から入学定員を60人から40人に変更し、教育課程の変更も行った。平成23年度入学者の定員減少を受け、定員確保と教育の充実を目指して次のような点に力点を置き教育ならびに広報活動を行った。①22年度のカリキュラム変更により導入した出版・メディア・マネジメント関係の科目が順次開講年度に達し、学生の就業力を高めるため、地元紙の編集者、ケーブルテレビのディレクター、文学担当の学芸員など現場の仕事に携わっている特別講師の招聘などを行い、就職への意欲を高める教育を行った。②体験重視の学科の視点から学外研修の充実を図った。③博学連携、伝統文化マイスター制度を通して社会との連携の中で学生を育てる機会を増やした。④これらの活動を、広報するために、プロジェクトの報告書の送付、講演会の公開、学科ホームページ、ブログの充実を引き続き行った。以上の取り組みにも関わらず、平成24年度入学者数は前年度を下回った。</p>	<p>○平成25年度に向けて、①就業力の向上及び社会人基礎力の養成の観点からカリキュラムの見直しを行う:1年次より学科基礎演習科目を設定し、4年間を通しての相談・支援の専門家養成カリキュラム改訂の計画について、②高校訪問先の見直し等検討:福祉系高校の訪問計画について、③指定校の見直し検討:福祉系高校の指定校の追加について、④平成25年度から入学定員を50名から40名に変更予定等々を計画している。</p> <p>○入学定員減により、定員充足率は0.7倍を超えたものの、平成24年度単年では0.7倍を下回ったため、平成25年度に向けて、①就業力の向上及び社会人基礎力の養成の観点からカリキュラムの見直しを行う、②オープンキャンパスへの来校を増やすために高校訪問などを行うとともに、事前にHPなどで広報して高校生に対して周知させる、③オープンキャンパスに来校した生徒に丁寧な学科説明を行うと同時にその後のフォローを的確に行い、入学しやすい環境を作る、④学外研修、体験的授業、マイスターなどの特色ある授業や課外活動のプロジェクトを発展させカリキュラムを充実させる、⑤資格科目の教育に力を入れ、就職に対する支援を強化する、などを行い、高校生に魅力ある学科をアピールしてゆく。</p>

		<p>○人文学部国際言語文化学科は、定員割れ対策として平成22年度から専攻を廃止し、入学定員を40人に変更した。同時に教育課程の変更も行い、(1)英語集中学習プログラム、(2)補習授業(自由科目)の設定、(3)留学制度の充実、(4)国際文化系科目群の設定などを骨子とした改善を行なった。 こうした取り組みにより、平成24年度は志願者の増加を見、定員には3名及ばなかったものの、定員充足率0.7倍は超えた。</p> <p>○人文学部観光文化学科は、平成24年度の入学者は14名で、開設以来3年にわたり著しく低い水準に推移している。平成22年度開設の準備段階からこのかた、「観光文化」の学科コンセプトをはじめ、多様な需要にこたえる人材養成をめざす本学科の理念と、それぞれの進路に対応した柔軟なカリキュラム構成などについて、高校生・高校教員の理解を得るべく施策を講じてきた。本年度はとりわけ高校教員との直接の交流、高校生を対象とするフォトコンテストの開催とその広報、学科イベントや在学生の活動についてのインターネット情報発信、マスメディアを通じた大学教員による活動など、大学と学科の社会的な認知度を向上させることに努力を傾注している。</p> <p>○東京成徳短期大学言語文化コミュニケーション科については、社会情勢の変化を勘案し、平成24年度以降の学生募集を停止した。</p>	<p>○該当なし</p> <p>○平成25年度から入学定員を40人に減員する予定である。当該年度の学生募集において、多様な需要にこたえる人材養成をめざす学科コンセプトと、指導的な役割から実務を担当する立場に至るまで各様の進路に対応したカリキュラム構成などについて、高校生・高校教員の理解を得るべく、従来の施策にいっそう力を注ぐとともに、はたらきかける対象をさらに拡大するように努める。</p> <p>○該当なし</p>
--	--	--	---

(注)・「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を( )書きで付記してください。

- ・「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- ・定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

## 7 その他全般的事項

＜応用心理学部 健康・スポーツ心理学科＞

### (1) 設置計画変更事項等

届出時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
<p>① 教育課程</p> <p>・ 外国人留学生の卒業要件は、日本語運用能力によらず「特設科目」は必修とし、共通領域必修の「キャリアデザイン」「文章表現法」「英語会話」「総合英語」は除外していた。</p> <p>「共通領域」必修6科目11単位を含め34単位、 「特設科目」必修12科目18単位。計52単位。</p> <p>「専門領域」72単位、合計124単位以上。</p>	<p>① 教育課程</p> <p>平成21年度から外国人留学生の日本語運用能力により「特設科目」を履修するよう選択科目へ変更し、共通領域必修の「キャリアデザイン」「文章表現法」「英語会話」「総合英語」は教育課程に加え、卒業要件ではなく、以下のとおり履修方法として設定した。</p> <p>「共通領域」必修10科目19単位を含め52単位、「特設科目」履修者は12科目18単位を修得した場合、共通領域必修の「キャリアデザイン」「文章表現法」「英語会話」「総合英語」の8単位及び選択科目10単位と単位振り替えを行う。</p> <p>専門領域72単位、合計124単位以上。</p> <p>《平成21年度報告済み》</p>

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

## (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

### ① 実施体制

#### a 委員会の設置状況

教員の資質の向上を図る組織として、平成10年度に「授業改革委員会(後の授業研究委員会)」を設置し、学生による授業評価や他の教員による授業参観などを通じて授業の自己点検・評価を実施し、授業方法の改善等を行ってきた。更に平成17年度に授業改善委員会(現 授業改善(FD)委員会)に改編し、教員のファカルティ・ディベロップメントの企画及び任務を加えた。

(別添「東京成徳大学人文学部・応用心理学部専門委員会規程」)

#### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

授業改善(FD)委員会は、年5回程度(平成21・22年度は3回、平成23年度は2回)開催されるが、審議内容によってはE-mailより意見交換を行っている。委員は、学長が任命した委員長と各学科等の長が指名した7名の計8名で構成される。委員会はこれらの構成員がほぼ全員出席のもとに行われている。

#### c 委員会の審議事項等

##### 授業改善(FD)委員会

- ・ 授業方法の改善に関すること
- ・ 教員のファカルティ・ディベロップメントに関すること
- ・ 学生の授業評価に関すること
- ・ その他委員会が必要と認めた事項

### ② 実施状況

#### a 実施内容

- ・ 学生による授業アンケート
- ・ FDセミナー

#### b 実施方法

- ・ 学生による授業アンケートは全教員を対象として実施している。その結果は授業担当教員にフィードバックされ、教育指導や授業の改善に役立っているほか、これらを取りまとめて公表している。
- ・ FDセミナーは平成17年度から実施している。わかりやすく学生が興味を抱く授業の進め方、私語をしにくい環境の作り方、授業評価の分析、障害学生の教育面での配慮等、授業担当教員が指導上行った工夫やアイデアなどを紹介し、教育面の資質の向上に役立っている。

#### c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 学生による授業アンケートは、全ての授業担当者(専任・兼任)を対象に2年ごとに実施している。

##### 【平成21年度】

対象教員:全教員(非常勤講師含む)

実施科目:必修科目もしくは履修者が最も多い科目を選定

実施時期:前期開講科目 7月、通年及び後期開講科目 1月

##### 【平成22年度】

前年度前期及び後期に実施した授業アンケートの結果を授業改善(FD)委員会で取りまとめ、平成22年7月に刊行した。

##### 【平成23年度】

対象教員:全教員(非常勤講師含む)

実施科目:必修科目もしくは履修者が最も多い科目を選定

実施時期:前期開講科目 7月、通年及び後期開講科目 1月

- ・ FDセミナーは毎年実施し、全専任教員が参加する。

##### 【平成21年度】

第1回FDセミナー「FDフォーラム参加報告」平成21年7月2日(木) 全専任教員参加

第2回FDセミナー「授業アンケート結果の分析(1) 人文学部」平成22年1月21日(木) 全専任教員参加

第3回FDセミナー「授業アンケート結果の分析(2) 応用心理学部」平成22年2月4日(木) 全専任教員参加

##### 【平成22年度】

FDセミナー「ミニシンポジウム“学生の多様化”をめぐる現状と課題」平成23年2月17日(木) 全専任教員参加

##### 【平成23年度】

第4回FDセミナー「授業アンケート結果の分析」「FDフォーラム参加報告」平成24年2月16日(木) 全専任教員参加

#### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生による授業アンケートの集計結果は、授業の改善等に役立っている他、これらは印刷物にとりまとめて教職員・学生に公開している。また、前述の分析結果はFDセミナーで発表し、教授方法の工夫・改善等の参考としている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

健康とスポーツを通して心の元気づくりの技能を育成する目的で平成21年4月にスタートした本学科には、1期生60名(定員50名)が入学してきた。1年次の共通領域の科目の履修と同時に、設置の趣旨である、健康とスポーツ体験を通しての心の元気づくりの実習と、スポーツボランティアの実習も全員が履修し、共通領域科目、専門科目の履修状況は良好で、学生による授業評価からも十分に目的を達成したことが確認できた。その後、2期生62名、3期生46名、4期生63名が入学した。3期生のみ定員未達であったが、収容定員を十分に上回った。2年次には「健康心理学」「ポジティブ心理学」「スポーツ心理学」の各領域の概論を学び、3年次には3領域の中で将来のキャリア形成を見据えた研究の準備を行った。4年次は、その成果を「卒業研究」としてまとめる。また、2年次から社会人基礎力の育成にも取り組み、1期生の就職支援に注力しているところである。以上のとおり、専任教員1名の交替はあったものの設置計画通り実施している。

#### ② 自己点検・評価報告書

##### a 公表(予定)時期

・平成22年7月公表(平成20～21年度分)。平成22～23年度分を平成24年中に公表する予定。

##### b 公表方法

・自己評価報告書を編纂し、関係者に配布。  
・大学ホームページに公開。

#### ③ 認証評価を受ける計画

・次回は、公益財団法人日本高等教育評価機構の受審を平成27年度に予定。

(注) ・ 届出時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (  有 ・  無 )
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) ( 平成23年6月10日 )
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (  承諾する ・  承諾しない )
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス  
(<http://www.tsu.ac.jp/guide/license.html>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。

なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : [d-secchi@mext.go.jp](mailto:d-secchi@mext.go.jp)

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。